

『招かれているのに』(ルカの福音書 14 章 15-24 節) 2021.6.20.

<はじめに> 招待券をいただいたなら、どうされますか。行くか行かないかは、何によって決めますか。気が進まない中でも招待に答えたことで、意外に素晴らしい経験をすることもあります。イエスは招くために神から遣わされました(5:31-32)。

I 食事の席で(1-15)

①招かれたイエス(1,12)

イエスは食事をするために、パリサイ派の指導者の家に招き入られました(1,12)。パリサイ派は律法厳守を旨とし、これまでイエスとは何度も意見が対立していました。なのに、どうしてこの人はイエスを招き、イエスもこの人の招きを受けられたのでしょうか。

②招き、招かれ(7-14)

イエスは、7-11 節で招かれた人が席次を選ぶ様子から、高慢の愚と謙遜の徳を説きます。12-14 節では、招待者からのお返しを期待しない幸いを示されます。その人は、「義人の復活のときに、お返しを受けるのです」。いつ、誰から、どんなお返しを受けるのでしょうか。

③これを聞いて(15)

「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と客の一人がイエスに言います。彼がこう言ったのは、イエスの話を聞いていたからです。その人はどんな人でしょうか(3)。イエスの話のどこを受けて、こう言ったのでしょうか。だれに向けて言った言葉でしょうか。

II 盛大な宴会(16-24)

①前もって招かれた人たち(16-20)

15 節を受けてイエスは盛大な宴会のたとえを話されました。事前に招かれていた人たちに、主人はしもべを遣わし「さあ、おいでください」と招きますが、彼らはみな断ります(24)。「断る」は口実を設けることです。その背後にある彼らの考え・思いは何でしょう。

②急に招かれた人たち(21-22)

宴会の席数は事前招待客数程度でしょうか。急に断られたから、他の人を招いたのでしょうか。しもべが「おおじになったとおりに」(24)したのは、21 節で主人に報告する前です。ならば、主人は元々貧しい人、からだの不自由な人も招くつもりだったのです。

③無理に招かれた人たち(23)

それでもなお席が余っています。「無理に」は強いて(文語訳)願って、説得してで、力づくではありません。街道は町外れの道、垣根は農園にあります。遠くにいる人、先に断った人、関心を示さなかった人にも再三招き入れるように、主人はしもべに命じます。

III 神の国で食事をする人

①食する幸い

食事に招かれるのは親愛の表れで名誉なことです。高名な人からの招待はなおさらです。「神の国で食事をする」とは、神に愛され、信頼され、認められた証しです。どんな人がそれに与れるとイエスは言っているでしょう。15 節の客はどう考えていたでしょう。

②招かれている

順序・方法は違って、みな宴会に招かれています。イエスは主人に神を重ねています。招待に応じることが、その祝福に与る条件です。神からの招きは、順序立てて、さまざま方法ですべての人に掛けられています。それを聞いていますか。どう応じていますか。

③用意はできている

17 節は神の国の招きに通じます。主イエスの十字架と復活は、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つため(ヨハネ 3:16)の整えで、完了しています。「さあ、おいでください」の声に応じて、あとは各々が出向くだけです。

<おわりに> 本来、人に必須なもの多くは無代価で提供されています。自分が勞せず犠牲を払わずに用意されたものを、安易に断り、無駄にはしてはいないでしょうか。神は招待に応じる者で家が満ちるまで招きます。その一席は私のため、あなたのために用意されています。(H.M.)